

## 高麗大学校〈世宗キャンパス〉（韓国）

秋セメスターのみ留学をする私にとってはこの留学も後半に差し掛かってきました。

風邪をひいて体調を崩したり、中間試験を受けたりと忙しかった10月に比べると11月は時間にも精神的にも余裕が生まれだしたと同時に韓国で過ごすことができる残り短い期間を全力で楽しむために今まで以上に積極的に外出しました。

その結果1か月の平均歩数が約9000歩という、普段は6000歩程度しか歩かない私にとってはかなり驚異的な数字を残すことができ、気力に続いて体力もついてきたと感じています。

12月分の最後の報告書にて一片の悔いのない留学生活だったと有終の美を飾れるようなそんな1か月を過ごしていきたいと思います。

## フライブルク大学（ドイツ）

ドイツでの生活に慣れてきて余暇の面でも色々と楽しめるようになってきたので、「迷ったら飛び込む」の精神でこれからも新しいことに挑戦していきたいです。

12月はプレゼンテーションの発表やレポート提出、旅行などが重なり忙しくなるので、計画を立てて時間管理をしっかりと行えるようにしていきたいです。

また気温も一気に下がり本格的な冬の始まりが感じられるので体調管理も気を付けていきたいと思います。

## ルーヴァン・カトリック大学 サンルイ ブリュッセル校大学（ベルギー）

11月23日の夜から26日にかけて、公共交通機関を含む大規模なストライキが行われました。現地の学生も「これほど大きなストライキは初めてだ」と話すほどの規模でした。学生寮が大学の施設内にあることもあり、公共交通機関を使う機会はあまり多くなく、ストライキの影響は小さかったですが、26日には普段であればバスで20～30分の距離を、メトロやトラムを乗り継いで1時間かけて移動しました。

この影響で、休講になった授業や開始時間が変更された授業もありました。留学開始以来、小規模なストライキは数回経験していましたが、今回のような大規模なものは初めてで、ヨーロッパのストライキ文化を知る貴重な経験となりました。

金曜日は授業がお昼で終わるので、午後はゆっくり過ごしています。

今月は、友達と電車で約1時間かけてMonsに行きました。Monsはブリュッセルと比べてとても小さな町ですが、街並みが綺麗で、雰囲気は落ち着いていて、とても気に入っています。

広場には、出店やメリーゴーランドがあり、日本にいた時に想像していたヨーロッパの雰囲気を感ずることができました。



## 中東工科大学（トルコ）

同じ授業を取っている友人の音楽サークルを見学し、トルコの伝統的な楽器を弾いてみたり、コンサートに行ったりした。横浜市立大学の授業で学んだイランの楽器によく似たものも多く、実際に触れて音を聞くことができたのはとても良い経験だった。

留学生は目立つためか、授業を取っている建物内で顔が知られており、いろいろな人が話しかけに来てアンカラ市内のトルコの伝統的な文化が楽しめる場所や、学生がよく利用する場所などを紹介し連れて行ってくれる。

殆どの留学生の友人は1セメスターしかないため1月に母国に帰ってしまう。今からとても寂しいが、残り一ヵ月楽しく過ごしより仲を深めていきたい。

## 上海師範大学（中国）

中国人の友人が出来たことで、中国語を日常的に話す機会が自然と増えました。これにより、教科書で勉強した言い方よりも口語的なものを知ることが出来るようになりました。

授業の復習とテスト勉強に追われた月でしたが、このように友人との時間も自分にとってまた良い学習の時間になっています。中間テストがありましたが、テスト期間中は集中して勉強に取り組むことが出来たので満足のいく結果を出すことが出来ました。来月も学習習慣も乱さないように気を付けます。

## 国立政治大学（台湾）

中間期間を経て、英語で受けるテストの難しさや、プレゼンにおいては発音やイントネーションのコンプレックスを今までより一層感じました。

プレゼンのある講義には様々なバックグラウンドを持つ学生が集まっており、それぞれの英語は特徴的でむしろアメリカやカナダのような発音やイントネーションの学生は少ないのですが、それでもやはり自分の英語に対して自信を無くしてしまいました。

また、テストは記述形式のもので、自分の考えや解答を英語で表現することの難しさを改めて感じました。書くべきことはわかっているのに、語彙力が足りず回りくどい記述になってしまい、英語学習をもっと頑張ろうという気持ちになりました。

しかし、この期間でプレゼンのメンバーとの準備の時間やクラスのメンバーとのテスト勉強を通してさらに仲良くなることができました。

特に、プレゼンのメンバーであるブラジル人の友人は、私が自分の英語に対するコンプレックスを話したところ、イントネーションはアイデンティティであって恥ずべきものではなくむしろ、2つ以上の言語を使っているということで誇るべきものだよと声をかけてくれて、すごくうれしかったです。